

宮古島西原地区を中心とした南琉球の言語・文化の調査、記録、保存、および維持  
— デジタル博物館作成の試み —

**The Description, Documentation, and Preservation of the Languages and Culture of  
Ikema Ryukyuan: An Attempt at Constructing a Digital Museum**

田窪 行則（京都大学大学院文学研究科 教授）

**【国内参加者】**

岩倉 正司（京都大学学術情報メディアセンターコンテンツ作成室 教務補佐員）  
上田 寛人（京都大学学術情報メディアセンターコンテンツ作成室 教務補佐員）  
狩俣 繁久（琉球大学人文学部 教授）  
川田 拓也（京都大学大学院文学研究科 博士後期課程）  
河原 達也（京都大学学術情報メディアセンター 教授）  
久保 智之（九州大学人文科学研究院 教授）  
下地 理則（群馬県立女子大学国際コミュニケーション学部 准教授）  
高橋奈津美（京都大学大学院文学研究科 博士後期課程）  
高橋三紀子（京都大学学術情報メディアセンターコンテンツ作成室 教務補佐員）  
田村 早苗（京都大学大学院文学研究科 博士後期課程）  
仲間 博之（前宮古高等学校校長）  
花城千枝子（ひよどり保育園園長）  
林 由華（京都大学大学院文学研究科 博士後期課程）  
平井芽阿里（中部大学人文学部 非常勤講師）  
宮部 誠人（京都大学学術情報メディアセンターコンテンツ作成室 教務補佐員）  
元木 環（京都大学学術情報メディアセンター 助教）

**【海外参加者】**

大野 剛（アルバータ大学 准教授）  
トマ・ペラール（フランス社会科学高等学院 博士課程）  
岩崎 勝一（カリフォルニア大学ロスアンジェルス校 教授）  
車田 千種（スタンフォード大学 博士課程）

**【ねらいと目的】**

琉球の言語と文化は現在消滅の危機に瀕している。また、琉球はシャーマニズム的な儀式を最近まで残し、独自の風習、文化を維持しながら豊かな生活を送ってきたが、さらに近年のマスメディアの発達や経済優先の生活のため地域の文化と言語が急速に失われている。

宮古島西原地区は、池間方言という宮古島でもかなり特徴的な言語が行われているところで、池間島から132年までに移住してきた住民が暮らしている。他地区から移住して自分た

ちの文化と言語を維持する努力をつづけてきたため、他地区より自己アイデンティティの確認作業を行わなければならない、母語と文化を維持してきた。

この地区の住人たちはさまざまな老人会の活動を通じて、積極的に次世代に言語・文化を伝える努力を続けている。彼らの活動は他の地区の人々のモデルとなりえるものである。

しかし、このような努力でさえも、言語と文化を維持するには十分でなく、近い将来言語も文化も消滅する可能性が高い。この独自の言語・文化を後世に残しておく必要がある。

本研究は西原地区の言語と文化を調査して、記述し、その成果をデジタル博物館として研究者および地区の住民たちが自由に見られる形で記録、一部を公開できるようにし、その言語・文化の継承に資することを目的とする。

### 【活動の記録】

2008年6月30日・7月1日

仲間博之前宮古高校校長 西原方言講義1 京都大学文学部小会議室

2009年10月23日

仲間博之前宮古高校校長 西原方言講義2 UCLA Royce Hall

2009年3月26日 研究会

Pellard, Thomas 「琉球諸語の歴史比較言語学」

2009年10月23日～25日

Workshop on Ryukyuan Languages and Linguistic Research

狩俣繁久 Overview of the Ryukyuan Languages and Linguistics Research

大野剛・岩崎勝一 A Life Narrative Approach for Language Documentation

田窪行則 The Digital Museum Project for the Documentation of Ikema Ryukyuan

林由華・田窪行則 Kakarimusubi in Miyako Ryukyuan

林由華ほか On the Accent System of Ikema Ryukyuan

下地理則ほか Description and Documentation of Ryukyuan Languages

Pellard, Thomas History and Classification of Ryukyuan

調査については多すぎるため省略

その他

電子博物館作成（京都大学デジタルコンテンツ作成室との共同研究）

電子博物館コンテンツ作成 ミャークヅツ映像記録 解説付き DVDの作成

花城千枝子氏作方言創作童話絵本作成、西原老人会方言歌劇「西原村立て」方言字幕、翻訳字幕作成、仲間校長西原方言講義字幕付き映像作成

## 【成果の概要】

### 2008 年度

(1) 宮古島西原地区の神事、行事、生活を映像、音声として記録した。特に 10 月に行われたミヤークヅツは、4 日間の映像をすべて記録し、20 時間ほどの映像記録を得た。これを編集し、解説を付けた 45 分の DVD を作成した。(2) 2008 年 7 月に仲間博之前宮古高校校長を招き、西原方言による方言講義を、2 編各 1 時間半の映像に編集した。(3) 西原地区老人会による方言歌劇「西原村立て」のビデオ映像を日本語、英語に翻訳した。(4) 花城千枝子西原ひよどり保育園園長の方言創作童話の絵本を製作。(5) 京都大学デジタルコンテンツ作成室の協力により、(1-4) を電子博物館として公開可能な形式に加工した。(6) カリフォルニア大岩崎勝一氏、アルバータ大大野剛氏と西原地区の方言記録の方法に関する研究を行った。

(1-5) は、The Digital Museum Project for the Documentation of Ikema Ryukyuan, (6) は Paving Ways to Documenting an Invisible Linguistic Minority in Japan: The Case of Ikema, という題で、ハワイ大学でひらかれた The first International Conference on Language Documentation and Conservation (ICLDC) において発表された。

### 2009 年度

2008 年度にプロトタイプとして作成した電子博物館の内容をさらに充実させ、二言語字幕の作成プログラムの作成、コンテンツ更新のテンプレートの作成を行った。同時に、西原地区の言語の記述を行い (係り結び、音調システム)、その内容をいくつかの国際的ワークショップで発表した (林、田窪、Pellard)。また、同地区の文化、2 言語併用と言語の消滅過程などについて研究し、ハワイ大学で行われた韓国語日本語言語学会議で発表した (岩崎・大野)。

10 月 23~25 日に UCLA で行われた琉球語ワークショップにおいて、田窪が電子博物館について、林・田窪が係り結びについて発表した。このワークショップでは、仲間博之氏が UCLA の学生に西原方言の講義をおこなった。この講義は撮影され、電子博物館に格納される予定である。



西原地区の命のめぐみを与えてきてくれた井戸 ヒダガーと呼ばれる



調査をしている



デジタルコン

